

	キャリア教育の視点	キャリア教育における課題分析	授業改善策
1年	自分のよいところを見付ける力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月)によると、86%(学年)の児童がよいところが言えると回答している。道徳(個性伸長)の授業や帰りの会等で自分のよいところを見付けたり、見付けてもらったりしている活動などにより、素地は育っている。一方で、よいところを自覚できていない児童が14%いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよいところを見付けたり、友達に見付けてもらったりするような活動を積極的に取り入れる。見付けたよさを発表する機会を設けるなどして、学級、学年全体に広げていき、自信のない児童には自信を育む声かけをみんなができるようにする。
	次のことを考える力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月)によると、85%(学年)の児童が、いろいろなことに目標をもって笑顔で(粘り強く)挑戦していると回答している。一方で、少し難しそうな課題に「できない」と消極的な態度を示す児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年目標の合い言葉「いま」を意識させていく。「いま」何をすべきかを常に振り返らせていく。また、「いま」のめあてを意識させ、見通しをもって主体的に授業に参加できるように板書やワークシートを工夫していく。
	みんなで学び聴く・伝える力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月)によると、「相手の話を「めとところ」でしっかり聞こうとしている」と回答した児童は、95%(学年)であった。相手の話をしっかり聞くことは大切だと思っている児童は多く、自己評価は高い。ただ、朝会や授業の様子を見ていると、最後まで静かに話を聞くことができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の授業を中心に、相手の話を聞いて、質問をしたり、感想を述べたりする活動をいろいろな場面でも取り入れていく。掲示物等で聞き方、話し方の常に振り返れるようにし、よいモデルを全体で共有していく。また、自分の思いを書く機会(日記等)を設け、伝えたい、知らせたいという動機付けを行っていく。
2年	自分のよいところを見付ける力	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート(7月)によると、65.9%の児童がよいところが言えると回答し、前年度より減ってしまった。道徳(個性伸長)や学活の授業等で自分のよいところを見つけたり、見付けてもらったりしているにもかかわらず、それが自分のものとして自覚できていなかったり、自分のものとして認められない児童が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や学活の授業だけでなく、各教科の授業等でも自分のよいところを見つけたり、見付けてもらったりできるよう自己理解につながる授業展開を意識して行っていく。そのままの自分をお互いに認めあえる授業を展開していく。
	次のことを	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子から、言われたことは積極 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに子供たちと一緒に話し

	考える力	的に取り組む児童は比較的多いが、計画を立てて学習に取り組んだり、目標をもって挑戦したりするなど、自分で決めて進めていくことはまだ難しい。興味や関心がある学習テーマに対しては積極的に取り組むようになってきた。	合いながら「学習のめあて」や「学習の流れ」を確認できるような活動を重視する。見通しをもって学習に取り組むことができるようワークシートを工夫する。さらに振り返りの時間を必ず取ることで、次の学習につなげていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、「相手の話を目と心でしっかり聞こうとしている」と回答した児童は86.9%（学年）であった。相手の話をしっかり聞くことは大切だと思っている児童は多く、自己評価は高いものの、実際には教師や友達の話を最後まで興味をもって聞くことが難しい児童がいる。	・話を最後まで聞き、それから質問をするということを、授業だけでなく日常的に習慣付けられるよう、声掛けをしていく。授業の際は、友達が発表するときに興味をもって聞くことができるよう、「聞くポイント」を示すなど意図的に指導していく。また、伝える側も友達が自分の意見を聞いてくれるように注目させてから話したり、声の大きさやスピードを調整したりするなどを意識させる。
3 年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、75%（学年）の児童がよいところが言えると回答している。道徳や学級活動（3）の授業で自分の良いところについて考える授業を行ったところ、よいところが言えないと回答した児童が多くいた。回答した児童の中には、自分のできること、続けていることに自信がもてていなかったり、そもそもそれがよいところだと認識していなかったりする児童が一定数いることが分かった。	・1学期に道徳や学級活動（3）で実施した、自分のよいところについて考えたり、友達に見付けてもらったりするような活動を今後も積極的に取り入れる。 ・続けていることや好きなことに取り組んだり、短所を長所に変える「リフレミング表」を活用したりしていく。そのことによって、自分のよさを多角的に捉える力を育てていく。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート（7月）によると、90%（学年）の児童が自分で学習計画を立てられていると回答している。家庭学習の実施状況から、概ね日々の計画やルーティーンを決めて取り組んでいる様子が窺える。 ・学習の見通しをもたずに家庭学習や学校での学習に取り組んでしまい、時間が足りずに課題を終えることのできない児童がいる。	・見通しをもって学習に取り組めるように働きかける。見通しをもって行動できている児童の様子を取り上げて価値付けたり、児童と一緒に学習計画を立てたりしていく。 ・見通しをもって取り組んだ学習を振り返ることで、改善を図る。「めあてを意識してふりかえろう」をキャリア目標とし、学習の過程を振り返り、次の学習に活かしていく。
	みんなで学び	・学校評価児童アンケート（7月）によ	・相手の話を受け止めたり、受けて話を

	聴く・伝える力	ると、「相手の話をしっかり聞こうとしている」と回答した児童は95%(学年)であった。実態として、友達と一緒に話し合う活動については、意欲的な児童が多いが、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の話を受け止める聞き方について手立てが必要である。	つなげたりするモデルをロールプレイング等で提示する。 ・この項目のキャリアの目標を「相手の気持ちをうけとって伝え合おう」とし、話し合いの流れについても意識できるような指導をしていく。
4年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート(7月)の結果より、「自分のよいところを言える」と回答した児童は69.5%(学年)であった。1学期に実施した道徳(個性伸長)の授業でも、他人と比べて特に優れているところが「自分のよいところ」と認識する児童がいる。	・年間を通じてどの教科においても振り返りの時間をつくる。振り返りを行うことで、頑張っていることや継続的に取り組んでいることを「自分のよいところ」と認識できるよう支援していく。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート(7月)でも、計画を立てて学習に取り組む児童は81.1%(学年)と前年に比べて10ポイントほど上がってはいるが約2割の児童が苦手意識を感じている。学習計画を立てたり、学習の見通しをもって取り組んだりすることに苦手意識をもつ児童が見られる。	・単元計画の中で、児童自らがめあてをもち、めあてに沿った計画が立てられるように授業展開を工夫していく。また、調べ学習においては、何をどのように調べるか、テーマや調べる方法を明確にして学習に取り組むことができるようワークシートや学習展開の工夫を行う。
	みんなで学び聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート(7月)より、相手の話をしっかり聞こうとしている意欲が高い児童が91.6%(学年)であった。多くの児童は意識しているが、教員の話を最後まで聞いたり、友達の発表に興味をもって聞いたりすることが難しい児童がいる。	・日常的な聞き方や話し方の指導に加えて、「聞きたい、伝えたい」という必要感をもたせる学習形態の工夫をしていく。友達の考えや自分の考えを比較・分類する時間をとるなど、聞く時の視点を明確にして授業を展開していく。
5年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、「自分のよいところを言える」と回答した児童は69.2%であった。「すすんで学ぶことで、自分らしさに気付ける」ことを意識した授業展開がより一層必要である。	・どの教科においても、単元のゴールに向かって自分がどのように頑張ったのか、何ができるようになったのかを振り返る時間を設け、その過程や成果を「自分らしさ」と捉えることで、自分のよいところを自覚する力へとつなげていきたい。
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、「自分で学習計画を立て、宿題や家庭学習に取り組んでいる」と回答した児童は79.4%であった。単元の	・研究授業での実践を生かし、今後も目的を意識しながら課題に取り組む学習過程を構築する必要がある。与えられた課題だけでなく、児童自らが単元

		ゴールを明確にした授業づくりや、学びを広げ深めるための自主学習ノートの取組を継続していきたい。	のゴールに向かって1単位時間のねらいを明確にしながら主体的に学習に取り組めるようにしていきたい。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、「相手の話を聞こうとしている」と回答した児童は88.4%であった。しかし、互いの意見を受けてよりよい考えを引き出そうとする姿勢が課題である。	・何のために話し合いをしているのか目的を明確にした上で、自分の意見ばかり押し通さないことや、友達の意見のよいところに着目し、新たな発見や創造力を育めるよう支援する。
6 年	自分のよいところを見付ける力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、「自分のよいところを言える」と回答した児童は52.2%であった。自己肯定感が著しく低く、自己認識も十分でない。	・自分の意見を表現できる言語活動の充実を意識する。(話し合い・文章) ・めあてをもったり振り返りを行ったりする時間を確保して、目的意識や自己理解を深める。(特別活動等)
	次のことを考える力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、「自分で学習計画を立て、宿題や家庭学習に取り組んでいる」と回答した児童は70.0%であった。問題解決学習を多く取り入れたことで、個に課題意識をもたせたが、さらなる取り組みが必要である。	・各教科単元の学習計画づくりや各自の探求的な活動に力を入れる。(各教科) ・開校50周年記念行事等に向けて自分たちが伝えたいことを整理し、どのようにしたら伝わるかを考えて活動する。(特別活動等)
	みんなで学び 聴く・伝える力	・学校評価児童アンケート(7月)によると、「友達と話し合い、仲良く活動している」と回答した児童は96.6%であり、他の項目よりも肯定的評価が多い。日常生活の中だけでなく教科の学習でも関わる力を付ける必要がある。	・各教科で小集団や全体での話し合いを充実させ、学び合う力を付ける。 ・一人一人に役割をもたせるとともに下学年とのより良い関わりを考えて活動することで他者と自分との関わりへの意識を高める。(特別活動等)
音 楽	自分のよいところを見付ける力	・自分に自信が無く、課題に取り組もうとしなかったり、うまくできないとやめてしまったりする児童がいる。	・友達同士認め合う活動を増やす中で、自分のよさにも気付くようにする。
	次のことを考える力	・振り返りの時間に、自分で次時のめあてを考えることができない児童がいる。	・振り返りをした後に何人か発表させ、全体で振り返りを行う中で次のめあてを考えていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・音楽は目で見えないため、よさや面白さがあやふやだったり、伝えるのが難しかったりする児童が多い。	・音楽を図で表すことで視覚化し、お互いの工夫を共有しやすくすることで、自分の考えをしっかりとつとめることができるようにする。 ・協力しながら学び合っていこうとする姿を価値付ける。
図	自分のよいところを	・自分の作品に自信をもてず、意欲もも	・意欲を引き出すような導入や、日頃か

画 工 作	見付ける力	てない児童がいる。	らどんなことに自分は興味があるか 思い起こさせるなどしながら、意欲を もてるようにする。
	次のことを 考える力	・自分の発想を生かして考えることが 難しい児童がいる。	・スモールステップを設定したり、視覚 的なヒント、ワークシートを与えたり しながら、次への見通しや意欲をもた せる。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・自分の作品を作ることに集中し、周囲 の作品を見て学ぼうとする児童が少 ない。	・導入、作業中、授業の終わりなどに、 他の児童の良さに気づけるよう、作品 の紹介をしたり、鑑賞を促す声かけを したりする。児童が互いの取り組みや 作品のよさを認め合えるようにする。
算 数	自分のよいところを 見付ける力	・計算や算数の学習内容に苦手意識を もつ児童がいる。	・授業の導入や終末に、適時簡単な計算 の復習に取り組む時間を設け、児童の 自信につなげる。
	次のことを 考える力	・学習課題を解決するにあたり、基礎的 な計算が身に付いていないために、 思考が止まってしまう児童がいる。 ・自己の課題を分析し、解決しようと いう姿勢が見てとれない児童がいる。	・他の単元を扱っているときも、復習用 に計算プリントを適時活用する。 ・「算数得点アップウィーク」などで、 児童が課題を設定・分析する機会を積 極的に取り入れ、適切な指導・助言を 継続していくことで、児童の自主性を 向上させる。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・自分の考えに自信をもてず、発表でき ない児童がいる。	・自分の考えをノートに書く時間をし っかりとり、個別にヒントを与えたり 、自信をもたせる声掛けをしたりし て発表につなげる。
理 科	自分のよいところを 見付ける力	・導入時や学習を進める中で自分達の 疑問をもとに学習課題を作るのが難 しい。	・児童の気付きを元に、話し合いをさ させ、言葉を補いながら、学習問題を作 らせる経験をさせる。
	次のことを 考える力	・問題解決型の学習の流れがまだ定着 していない。	・ノート指導の充実による思考トレー ニングを続けていく。
	みんなで学び 聴く・伝える力	・積極的に意見を言える児童とそうで ない児童の差がある。	・友達の話をしっかり聞くところから 始めて、自分はどう思うのかの意思表 示の場を設け、自分の考えをもてるよ うにする。